

平成21年度 教育行政評価 No10 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	鹿嶋の民話及び市民音頭普及事業(文化事業)	担当	部 名	市民協働部
			課 名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1) 郷土理解教育の推進
個別施策	(2) 伝統文化の保護と継承

2 事業概要

目 的	幼児期からの郷土の民話の普及が課題ですが、平成20年度に体系的にまとめた民話集が完成し、幼児期から大人までの幅広い層へ普及活動を行っています。各幼稚園や保育園、小学校へ配布した民話集を活用して、ボランティア団体である鹿嶋語り部の会の協力のもと、普及活動に努め郷土愛の育成を図っていきます。			
対象及び規模	対象	市民	規模	65,911人

3 実績

民話普及活動は32回(昨年25回)以外にボランティアとして14回、延べ46回の普及活動を行い、2,827人が聴講しました。市民音頭普及活動は昨年同様、桜まつり、夏まつり、かしまつりの3回行いました。	
民話普及は、各幼稚園・保育園や小学校へ配布した民話集を活用して、鹿嶋語り部の会の協力のもと普及活動に努めました。また、鹿嶋市民音頭は、舞踊連盟の協力のもと各種イベント(体育祭、夏まつり等)において市民全員が踊れる音頭として普及活動に努めました。さらに、市内の郷土かるたは、文化財愛護かるたを筆頭に3地区の郷土かるたを普及するため、各かるた大会等を支援し郷土愛の育成に努めました。	

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	「鹿嶋の民話」が完成し、普及活動を行っていますが、鹿嶋語り部の会が独自に収集した話の民話化が進んでいます。また、創作民話の制作にも力を入れており、広く市民の皆さんに普及するためにもこれらの資料を整理して追加民話集として編集、発刊するか検討が必要です。
改 善 策	追加民話集については、鹿嶋語り部の会と連携し検討していきます。

平成21年度 教育行政評価 No11 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	小・中学校英語活動(英語指導事業経費)	担当	部 名	教育委員会
			課 名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2) 国際理解教育の推進
個別施策	(1) 小中学校での英語教育の充実

2 事業概要

目 的	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自ら進んで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点に、中学校では、小学校から慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力を含む総合的な英語力の向上に努めます。			
対象及び規模	対象	小学生・中学生	規模	5,640人

3 実績

英語を社内公用語とする日本企業が増加している現在、英語教育は国際理解教育の推進からも、今後ますます重要となっていきます。その中で、英語を母国語とする外国人英語指導助手による英語指導は、小学生から英語や身近にいる外国人と多く触れ、慣れることで将来に渡り、積極的に英語によりコミュニケーションできる能力を養う重要な機会です。	
教育効果という面からは、鹿嶋市の特色ある英語教育に刺激を受ける児童生徒が増加しています。	

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課 題	小学校で培った英語力とコミュニケーション力を、中学校英語教育においてどう伸ばしていくかが課題です。
改 善 策	教員と英語指導助手による、より教育効果の高い授業を行うための研究を進めます。教育研修会や学校訪問研修会等を始めとして、教員の研修機会を多く設定します。校内での英語教育研修体制の確立を支援していきます。